

# 土木構造物の骨組をつくる鉄筋工

[取材現場] 東京外環自動車道 市川中工事(千葉県市川市)

[取材協力者] 小嶋 寿明氏(島進鉄鋼)、岡本 輝雄氏、並木 昌幸氏(岡本鉄筋)、  
奥本 現氏、吉住 淳志氏(鹿島建設)

建設現場の最前線で活躍する職人とその技に焦点を当てる連載企画「現場を支える職人技」。第3回となる今回は、東京外環自動車道市川中工事において土木構造物の骨組をつくる鉄筋工の職長を務める島進鉄鋼の小嶋氏、岡本鉄筋の岡本氏、並木氏、現場を監督する鹿島建設の奥本氏、吉住氏にお話を伺いました。

## 土木構造物の骨組をつくる精密な職人技

はじめに、こちらの現場について教えてください。

吉住——千葉県市川市高谷と埼玉県三郷市をつなぐ東京外環自動車道千

葉県区間の工事を行っています。高

速道路を地下へ、また国道を地上へ

整備する「掘割構造」と呼ばれる地

下構造物を建設しています。現場内

には河川や鉄道、複数の幹線道路が

交差しており、現場周辺には住宅や

学校、病院などが密集しています。こ

ういった環境に配

慮した施工を行

うために、工事に

の仮設道路やバス

チャープラントを

現場内に整備して

います。

——今回、この現

場で活躍する鉄筋

工の職人さんとし

て、小嶋様、岡本

様、並木様を紹介

いただいた理由

を教えてください

い。

奥本——鉄筋はコンクリート構造物にとっては骨のようなものです。鉄筋工の職人さんには、「設計図面通りに正しい太さの鉄筋を正確に配置する」という、精密かつ高度な技術が求められます。特にこの3名はこのような技術に長けています。

また彼らは、職人さんたちをまと

める職長の中でも特に優秀であると

して、鹿島建設の「鹿島マイスター」

制度におけるマイスターとして認定

されています。職長として職人さん

たちを束ねて仕事をしていくという

統率力ももちろん必要ですが、現場

には鉄筋工だけでなく他業者の作業

もありますから、安全に仕事ができ

るように業者間で工程を調整して管

理する能力は非常に重要です。安全

に対する意識も非常に高いです。

——現場では鉄筋が精密で美しく組

まれている様子を拝見しました。図面

通りに施工するために工夫されている

ことはありますか。

小嶋——必要な鉄筋の部材は、設計

図面と現場を見比べて発注し、発注

した鉄筋の加工は加工帳を使って工

場に依頼します。部材ごとに細かい

加工をすることもできますが、それ

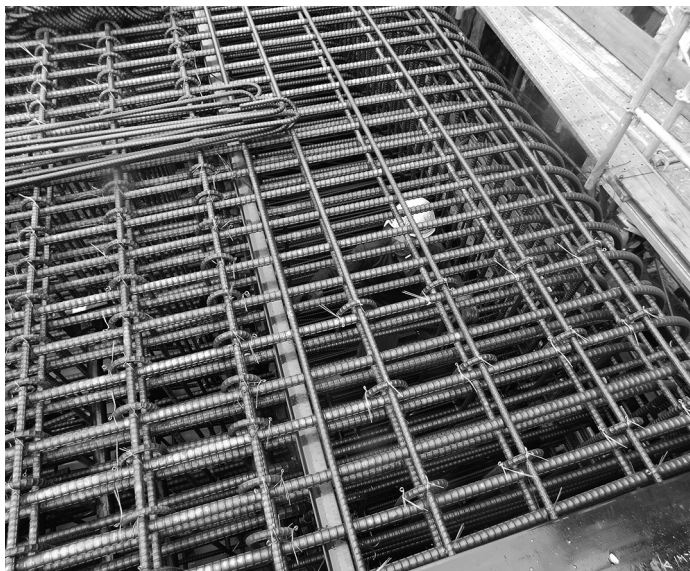


写真1 職人技により精密で美しく組まれた鉄筋



写真2 現場事務所に集合写真(左から奥本氏、並木氏、岡本氏、小嶋氏)

によって作業が非効率になることもあります。そのような場合は一番長い部材を現場で切断することで、効率よく作業が進められるように工夫しています。

また、図面には載らないのですが、鉄筋を組む上で必要となる「段取り筋」の本数についてもこれまでの経験を元に計算して発注しています。

加工帳は実際に現場で鉄筋を組む際にも利用します。鉄筋を組む順番と加工帳の記載順を合わせることで、

作業がわかりやすくできるように工夫しています。

**岡本**——たとえ同じ設計図面であっても、それぞれの現場で作業環境や制約条件、職人さんの人数などはすべて違うので、その点では苦勞することもあります。特にこの現場のように地下構造物を建設する場合には、土留めや支保工などの仮設構造物が必要ですが、これらが鉄筋搬入や組み立ての障害になる場合があります。それを考慮した鉄筋の組み方は図面には載っていないため、施工が難しくなります。このような場合には現場を確認して、設計の方々と相談しながら継手位置を変更するなど、安全かつ効率的に施工できる設計に変更してもらうよう、話をしながら作業を進めています。

**吉住**——職人さんが実際に図面と現場を見比べて、鉄筋を組めるかどうか不明瞭な箇所についてはCADなどを使って、組む順番などを詳しく説明してくれるので、とても説得力があり助かっています。現場で組むだけではなく、組むまでの計画や準備

備にとっても多くの時間を割いていただいています。

職人さんにとっては自分たちの作業を効率よく進めるためでもありますが、事前に問題が発生しそうな箇所を教えてもらえるというのは監督者にも発注者にもとてもありがたいです。

### 若手への期待と現場への想い

——技術を継承していく若手の職人さんへの期待や現場への想いを教えてください。

**並木**——若手の職人が少なくなる点は心配ではありませんが、その中でもより技能の高い職人を目指せる人は、向上心を持って仕事をしてくれらると思っ期待しています。彼らに対しては「鉄筋工の仕事は地図に載る仕事だよ」と伝えています。私は今までに担当した現場や応援に行った現場を地図の上で印をつけていますが、その印が増えれば、それが生きがいになっていくと思いますし、「自分が施工したところはこのあたりかな」と思い出すだけでもとても誇りになると思います。またわれわれの仕事は、

気を緩めると本当に危険と隣り合わせの環境の中にあるので、職人さんたちに毎日無事に帰ってもらえることが嬉しいです。

**岡本**——若手の鉄筋工の職人が少ないので、若い人にぜひやってもらいたいなと思います。今の若手の職人たちには「仕事をしていて楽しい？ 仕事の夢を見る？」と聞くようになっています。私自身、仕事を趣味のように楽しく取り組んでいますし、仕事を第一に考えているので、次の仕事のことが気になって鉄筋を組む夢を見ることもあります。完成した現場を家族に見せて説明できる、自慢できるところはいいですね。

**奥本**——現場では、「ものをつくり、実現させる」ことで最終的な成果を問われますが、それは表面的な結果であり、実は「ものをつくり、実現させる」ための入念な計画、準備、調整に多くの時間を割いており、それにより現場がうまく進んでいます。事前準備を確実にこなし、現場を統率して安全に進めてくれる人が優れた職長であると思いますね。

(担当編集委員：小澤広直、若尾晃宏)